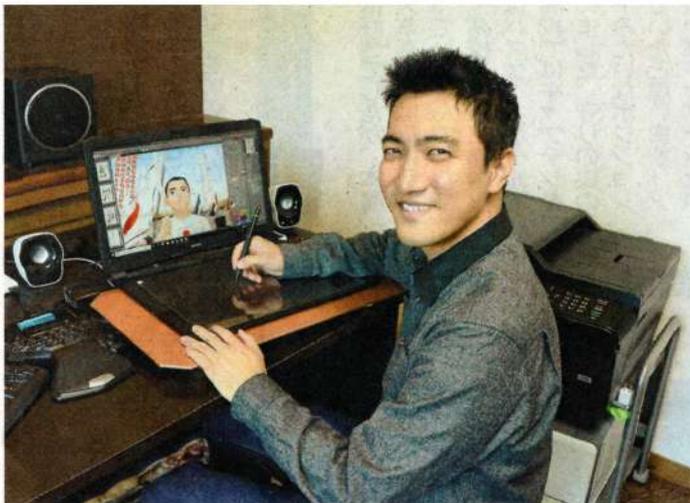


四三の活躍 楽しんで

漫画「KANAKURI」本紙連載へ

日本初のオリンピック選手としてストックホルム五輪マラソンに出場し、日本陸上界の発展にも尽力した金栗四三（和水町出身、1891～1983）の生涯を描く漫画「KANAKURI（カナクリ）」が7日、本紙朝刊でスタートする。自身初の連載漫画として作画に腕をふるう岩田紘典（ひろのり）さん（38）＝崇城大芸術学部マンガ表現コース非常勤講師＝に、金栗四三への思いや意気込みを聞いた。（松本敦）

「金栗四三のイメージを人。スポーツ選手は自らを鍛え上げる修行僧のイメージ」といふ。岩田さんは世の中にない、水滸伝の作中に登場しそうな魅力あふれた。その模範として



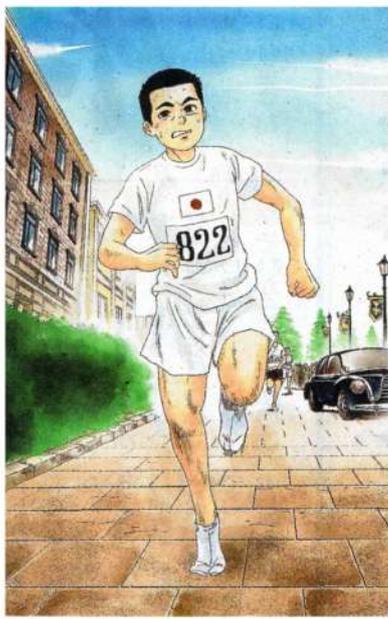
漫画「KANAKURI」の作画を担当する岩田紘典さん。自宅仕事部屋のパソコンで、急ピッチで作業を進めている

作画の岩田さん「親しみを描く」

自分を鍛えるような人だったと思う」
「生前の写真を見ると、玉名市に住んでいて亡くなった私の祖父にとってもよく似ている。金栗さんの方が30歳ほど年上だが、当時の玉名の人の話しぶりや考え方はきつと同じだったはず。金栗さんにこれまで感じてきた親しみを描いていく」

「面白い漫画には、魅力たっぷりの脇役たちが必要。ライバルとの戦いを中心に、早く続きが読みたくなるような作品に仕上げていきたい。世界の舞台でオロオロしたり、強敵を前に絶望したり。少年漫画の主人公のように、読者が自分と金栗さんを重ね合わせて楽しめるような漫画にしようと思う」

連載には崇城大学の生も加わります。



岩田紘典さんが描く金栗四三。ストックホルム五輪を力走する場面

いわた・ひろのり 1979年大牟田市生まれ。小学3年時に熊本市に転居。熊本高一熊本大文学部。大手雑誌社で漫画連載中の地元漫画家のアシスタントとして10年以上のキャリアを持つ。熊本市東区在住。38歳。

「第1話は、いきなりクライマックスのストックホルム五輪から描く。足と心臓の強さが武器の金栗さんの戦いに注目してほしい。ストーリー作りや作画には、崇城大生が参加している。学生と作品とともに、私も大きく成長していきたい」
※「KANAKURI」は毎週土曜朝刊掲載。原作は元熊日記者長谷川孝道さん、構成は熊本マンガミュージアムプロジェクトの橋本博代表。